

スリナム月間情勢報告
(2020年11月)

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- アディーン前副大統領が逮捕され、前政権閣僚の逮捕者は、ウーフダド前財務大臣(国外逃亡中)に次ぎ、2人目となった。ポータッセ前大統領の82年事件に関する控訴審には、前大統領が初めて出廷し、無罪を主張した。
- スリナム経済は、債務利払いの期限が過ぎる中で、返済繰り延べ交渉が実施されている。10月のインフレ率は前年同月比54%と、困難な経済状況が続いており、IMFからの支援協議も行われている。
- スリナム独立45周年式典には、ガイアナから大統領、オランダ及びブラジルから外務大臣が出席し、それぞれとの個別会談も実施された。駐オランダ大使も指名され、オランダとの関係は改善されつつある。

2. 内政

(1) 新型コロナウイルス

- 8日付現地紙は、ラマディン保健大臣は、スリナムは赤警告状態を脱したが、22日まで夜間外出禁止、30人以上の集会禁止、レストラン店内飲食禁止等の規制措置を継続すると発表したと報道。24日付現地紙は、同大臣は、23日から12月6日まで夜間外出禁止時間を短縮するが、その他の措置は継続と発表したと報道。
- 9日付現地紙は、ベネズエラ大使は3日、保健省に対し、7千個の即応検査キットを寄贈したと報道。
- 30日、オランダは、呼吸器18台と保護具等を寄贈し、引渡し式がサントキ大統領及びラマディン保健大臣が出席して実施された。

(2) その他内政

- 1日付現地紙は、政府は汚職捜査に関して、オランダ及び米国に捜査支援を要請したと報道。
- 16日付現地紙は、サントキ大統領の娘が大統領府職質管理室長に採用された、同大統領夫人も依然内閣室長代行を務めていると報道。
- 16日付現地紙は、裁判所は、次期長官に現職のラソエルバックス判事を指名した、サントキ大統領は近々長官を任命すると述べたと報道。
- 16日付現地紙は、サントキ大統領は、現政権が就任した時点で、今年度予算は残っていなかった、これは前政権の健全な政策欠如によるものと述べたと報道。

● 16～18日付現地紙は、アディーン前副大統領は、副大統領室の機器を破壊した容疑により逮捕された、サントキ大統領は犯罪者の身分に関係なく、犯罪者は法の裁きを受けると述べ、野党NDPは本件を不当逮捕として、早期釈放を求める声明を発出したと報道。24日付現地紙は、弁護人は前副大統領の釈放を求め、略式手続を求めたが、裁判所はそれを認めなかったものの、刑事裁判所は前大統領の即時釈放を命じたが、検察側が控訴し、釈放は中断されたと報道。25日付現地紙は、前大統領は保釈され、国会で同国の分断を懸念するとの演説を行ったと報道。

● 18日付現地紙は、外務省は、海外スリナム人機関（ホームページ）の創設を発表し、サントキ大統領は、内外のスリナム人が協力して国家発展の政策を打ち立てていくとのメッセージを発出したと報道。

● 25日、スリナム独立45周年式典が実施され、サントキ大統領は、この45年には困難な時期もあったが、現政権は関係者と協力して、今後の課題に取り組むと述べた。国外からは、アリ・ガイアナ大統領、ブロック・オランダ外務大臣及びアウラージョ外務大臣が出席した。

● 30日付現地紙は、1982年虐殺事件に関する控訴審が同日開催され、有罪判決を受けているボータッセ前大統領が初めて出廷し、無実を主張する声明を読み上げた、次回の審理は明年1月29日となったと報道。

3. 経済

● 4日付現地紙は、パーメッサ前農業大臣が交渉した今年のベネズエラへの3万トンの米輸出は、年初に8千トン輸出された以降途絶えている、ベネズエラ側は支払いを済ませており、督促していると報道。

● 4日付現地紙は、経済学者協会は、サントキ政権での財政赤字は、129億スリナムドルと過去最高を記録したと発表したと報道。

● 9日付現地紙は、チョン＝アヒン環境大臣は、金鉱業でシアン化合物が使用されている可能性があり、環境への影響が懸念されるので、迅速な調査が必要と述べたと報道。

● 13日付現地紙は、アビアモフォ天然資源大臣は、国境地帯を視察し、国境のマローニ川での鉱業活動は環境破壊を引き起こすとして禁止すると発表したと報道。

● 14日、財務省は、10月26日に支払い期限であった26年債の利息2,543.7万米ドルにつき、30日間の支払い猶予期間を要請し、債権団と交渉を続けている、同時に12月30日支払い期限の23年債の支払い繰り延べも交渉していると発表。

● 16日付現地紙は、サントキ大統領は、スリナム航空はこの10年間黒字とな

っておらず、債務は7,500万米ドル以上に上り、政府は危機対策計画を検討すると述べたと報道。

●18日付現地紙は、今年10月までのスリナムの原油発見は73件で、ロシアに次ぎ第2位となった、コロナ禍の中でも探索活動が続けられ、発見資源は石油換算で80億バレル超となったと報道。

●22日付当地紙は、IMFは、スリナムが経済脆弱性の克服、強固な持続的成長への復帰のための経済計画への財政支援を要請しているとの声明を発表したと報道。

●24日付現地紙は、統計局は、10月のインフレ率は前年同月比で54.2%、前月比で6.9%上昇したと発表したと報道。

●25日付現地紙は、オランダは、余剰の医薬品をラムディン保健大臣に寄贈し、医薬品は国内の医療機関で使用されると報道。

●27日付現地紙は、ラムディン外務大臣は、EUとの間でコトヌー条約8条協議を行い、技術協力や財政支援の分野等につき協議したと報道。

4. 外交

●4日付現地紙は、政府は駐オランダ大使にカーギ氏を検討している、同氏はオランダ国籍であったが、スリナムに帰化し、長年メディア関係の業務に従事し、最近はスリナム外務省顧問を務めていると報道。16日付現地紙は、サントキ大統領は同氏を駐オランダ大使に指名したと発表、オランダ側の承諾待ちと報道。

●5～7日付現地紙は、3～4日、ファン・デル・プラス蘭政務局長及びファン・デル・ズワン次期駐スリナム大使が来訪し、マッキントッシュ外務次官との間での高級事務レベル協議開催及びラムディン外務大臣との会談等を行い、オランダからの1,900万ユーロの援助資金の使途、両国大使の相互派遣、財務、司法、警察分野等での協力等を協議した、スリナム独立記念式典にブロック蘭外務大臣が出席することとなったと報道。

●10日付現地紙は、サントキ大統領は、バイデン米次期大統領に祝辞を発出したと報道。

●24日、サントキ大統領は、独立記念式典のため来訪中のアリ大統領との首脳会談を実施し、会談後、両国間の対話の強化と継続、両国間フェリーの再開、コレンティーン川橋梁の建設等につき協議されたとの記者発表が発出された。また、両国外務大臣によるコレンティーン川橋梁建設に関する覚書も署名された。

●26日付現地紙は、独立記念式典のため来訪中のブロック・オランダ外務大臣は、サントキ大統領及びラムディン外務大臣と会談し、両国関係を強化していくことで一致し、農業、司法、組織犯罪対策等の分野では事務レベルでの協議が開始されていると述べたと報道。

● 26日付現地紙は、独立記念式典のため来訪中のアラウージョ・ブラジル外務大臣は、サントキ大統領及びラムディン外務大臣と会談し、両国間で経済、インフラ、農業、組織犯罪対策等の分野で協力を強化したいと述べ、ラムディン大臣は両国にガイアナ及び仏領ギアナを加えて、エネルギー共同供給計画を策定したい、21年予定のボルソナーロ大統領のスリナム訪問時に取り上げたいと述べたと報道。

● 26日付現地紙は、サントキ大統領は26日にイスラエル名誉領事と会談した際に、イスラエルとの関係強化のため、非居住駐イスラエル大使を任命したいと述べたと報道。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。